

提言 — ナザレのイエスの教えと同じくらい愚かな

(礼拝の後で読まれたし)

人生で3度目の経験になりますが、この教会の牧師（マクリーン）は、聖霊が、抗い難い力で、一見愚かで非現実的なことを実行するよう自分を突き動かしていると感じています。最初のそのような体験は、大好きだった法律家への道をあきらめ、当時は魅力を感じなかった聖職への召しに従うことを強いられた時でした。2回目は、この教会の牧師を引き受けたことで、そのような職責に自分が適任とは思えなかった時でした。今（3度目として）、彼は、われわれの原子爆弾により破壊された日本の広島と長崎の復興のために、アメリカのクリスチャンの間で資金を集める運動を始めよう、神が自分に命じておられると信じています。これは、戦争を早期終結し、多くの尊い命を救ったこの行為に正否を下すものではありません。しかし事実、キリスト教国によるこの行為は、無数の無力な市民を殺したばかりか、無数の人々の家を破壊し、彼らは打ちのめされ、怪我を負い、恐怖に怯え、生活の手段を奪われることになったのです。これらの人々の大多数、特に女性や子供には、ギンターパーク市民と同様、この戦争を始めた責任は全くありません。もしアメリカのキリスト教徒が、わが国の軍事力によるこれらの犠牲者たちのために大きな業をなすならば、それは人の苦しみを和らげるだけでなく、異教徒の世界に感銘を与えるキリスト教的行為となり、同時に、キリストの霊を顕著な方法で表明することになるでしょう。キリストは弟子たちに、敵を赦し愛せと教えました。この世はその命令を真剣に受け止めたことはありません。だからこそ、私たちは

将来の戦争の種を絶つために何か行動を起こしてはどうだろうか。それは同時に海外宣教の大義に強力な推進力を与えるとも思われます。

近い将来、この計画の詳細な説明が、長老派機関紙の通信欄に掲載される予定であり、教団全体に訴えるその文書を読みたいと思われる人もあるでしょう。現在の教会規則によれば、この教会では特別な献金のための公的なアピールはできないことになっていますし、この手紙はそのような合意の精神に背くものではありません。しかし、個々人がこの提案に対して注意を喚起されないままでよいということでは決してありません。最近、ノースカロライナ州ウィルミントンの第一長老教会のメンズクラブは、教会の一致について、私たちの教団全体に感銘を与えるような決議を採択しました。この教会でもこの考えを促進すべきだと関心を持つグループが出て来ることも可能でしょう。この新しい時代に、南部長老教会が伝統的な保守主義から脱却し、全世界がよりキリスト教的になるような影響力を持つ計画を率先して実行するなら、実にスリリングなことでありましょう。

(1946年1月6日(日)のギンターパーク教会週報より転載)

追記：これが、この運動の発端となった声明原文である。このマクリーンの週報について彼が会衆に対してコメントすることはなかった。